別記様式第６号（第16条第３項，第25条第３項関係）

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

博士の専攻分野の名称	博士（　保健学　）	氏名	PRIHANTO BUDI JUNAIDI
学 位 授 与 の 条 件	学位規則第４条第(1)・２項該当		

論　文　題　目
AN ANALYSIS ON HEALTH LITERACY, HEALTH BEHAVIOR, AND QUALITY OF LIFE OF STUDENTS IN SURABAYA, INDONESIA: FOR IMPROVEMENT ON HEALTH PROMOTION AND EDUCATION
（インドネシアのスラバヤにおける学生のヘルスリテラシー，健康行動，および生活の質に関する分析：健康増進と健康教育の改善のために）

論文審査担当者

主　　査	教　授	森山　美知子	印
審査委員	教　授	中谷　久恵	
審査委員	准教授	Rahman Md Moshiur	

〔論文審査の結果の要旨〕

本研究の目的は，インドネシアの高等学校と大学における健康増進と健康教育におけるヘルスリテラシー（HL）の重要性を明らかにし，またインドネシア政府が推進する健康増進学校プログラムの効果を評価することである。健康行動や生活の質（QOL）などの健康アウトカムは社会経済的要因の影響を受けるが，HL は健康アウトカムを改善する重要な要因であることが知られている。そのため，インドネシアのスラバヤ市で高校生と大学生を対象に２つの横断研究を実施した。HL には，包括的 HL と機能的 HL がある。包括的 HL は，健康行動の意思決定プロセスに関与し，健康情報を検索，理解，評価および利用して健康を維持および改善する個々のスキルの認識を測定するもの，また，機能的 HL は，健康関連の情報テキストを読み，理解し，簡単な計算を実行する個人の能力を測定するものである。

調査は，2019 年 12 月から 2020 年１月に実施された。高校生を対象とする調査では，健康行動，HL（包括的 HL と機能的 HL），健康増進学校プログラムおよび社会経済的要因に関して，スラバヤ市の５つの行政区域にある 15 の高校から 960 人の回答を得た。大学生を対象とする調査では，HL（包括的 HL および機能的 HL），健康行動，肥満度（BMI），社会経済的要因に関するデータを収集し，同市にある大学７学部 27 コースから 930 人の回答を得た。

包括的 HL は，高校生と大学生のそれぞれで，水準が「十分」の者が 64.3%-68.3%，「問題あり」が 30.4%-26.7%で，「不適切」が 5.3%-5.1%であった。性別および教育段階（学年）による包括的 HL の有意差は認められなかった。 包括的 HL は健康行動との強い関連を示し，包括的 HL が高いと健康行動が良好であった。多変量解析の結果からは，包括的 HL は健康行動（手洗いと身体活動）に有意に関連しており，健康行動の改善に対して包括的 HL が意思決定プロセスを通して影響することを示した。薬物乱用のみが包括的 HL と機能的 HL の両方に関連していた。包括的 HL は，QOL ４領域（身体的，心理的，社会的関

係，環境）のすべてと有意な正の関連があり，QOL との関連における重要性が示された。

機能的 HL の結果における判定水準の割合は，高校生と大学生のそれぞれで，「平均的」が 25.9%-17.6%，「問題あり」が 40.0%-37.5%，「限定的」が 34.4%-44.8%であり，懸念すべき結果を示した。機能的 HL では，両集団で女子学生が男子学生よりも優れており，さらに高校生の方が大学生よりも優れていた。また，機能的 HL は健康行動（喫煙とアルコール使用）と有意に強い正の関連があることが示された。これら 2 つの健康行動は，意思決定プロセスが介在しない直接的健康リスクと判断された。機能的 HL と QOL の関連では，機能的 HL は身体的および社会的関係領域とに負の関連が示された。この結果は，以前の研究結果とは異なるが，調査集団の均質性あるいは文化的背景の違いのためではないかと考えられた。

スラバヤの高校では，健康増進学校プログラムの実施について，懸念される結果が得られた。対象となった 15 の高校中，5 つの高校のみが標準レベルに分類され，残りの 10 校は最小レベルに分類され，プログラムの効果が最適以上のレベルの高校はなかった。同プログラムは保健室に健康測定機器を提供はするものの，行政や保健医療関係機関からの支援はなく，行政側の本プログラムの重要性についての認識が低いことが考えられた。

健康アウトカムとしての BMI は，栄養摂取量や食習慣の間接的な結果と考えられるが，年齢の増加による悪化傾向が示された。また，身体活動レベルが低い（高校生で 73.3%）と運動なし（大学生で 41.3%）が BMI 悪化に寄与している可能性が示された。両研究結果から，健康に有害な影響を与える健康行動の割合の高い傾向を示す男子学生と比較して，女子学生はより良い健康行動を有していた。QOL は，本人の生活する文化と価値体系における自身の立ち位置の評価であり，本人の目標，期待，基準，および懸念に関連したものである。大学生の研究結果においては，それが中適度にとどまっており，大学生の健康と良好な生活を確保するためには改善の必要があると考えられた。

以上の研究結果から，本論文はインドネシアの学生において，ヘルスリテラシーが健康アウトカムに影響を与える顕著な要因であることを示し，健康増進学校プログラムにおけるヘルスリテラシーの重要性に根拠を与え，高校・大学における健康教育の検討に大きく貢献する研究として高く評価される。

よって審査委員会委員全員は，本論文が著者に博士（保健学）の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。